

2024 年度（令和 6 年度）第 1 回バス共創プラットフォーム 会議録（要旨）

1 日 時

2024 年（令和 6 年）7 月 23 日（火）15：00～17：00

2 場 所

iti SETOUCHI tovio 福山市西町一丁目 1-1

3 出席者

(1) 委員（14 名）

神田佑亮委員、鈴木春菜委員、宇田雅英委員、神原昌弘委員、石川亮委員（代理 新谷大）、吉本伸久委員、富田直也委員、小野裕之委員、後藤裕正委員（代理 藤原慎）、佐野公章委員、速水優一委員（代理 山根直樹）、丸石圭一委員、行迫孝治委員、難波和通委員

(2) 事務局（6 名）

(3) 傍聴者（12 名）

(4) 随行者（1 名）

4 会議の成立

委員 17 名中、代理出席を含め 14 名出席で、委員の過半数が出席しているため、バス共創プラットフォーム設置要綱第 6 条第 2 項の規定により会議が成立。

5 内容

(1) 議事

ア 役員の選出

(2) 説明内容

ア 福山・笠岡地域公共交通計画（目的の共有）
イ 連携・協働のあり方、イメージ
ウ 公共交通（バス路線）の現状等

(3) 意見交換

6 資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・出席者名簿
- ・資料1 バス共創プラットフォーム設置要綱
- ・資料2 バス共創プラットフォーム資料 第1回

7 協議内容

(1) 開会

(2) 議事 (1) 役員の選出

- ・事務局から資料1の説明を行い、次のとおり役員の選出を行った。

会長：神田祐亮委員

副会長：鈴木春菜委員、難波和通委員

(3) 説明内容 (1) 福山・笠岡地域公共交通計画（目的の共有）

(2) 連携・協働のあり方、イメージ

(3) 公共交通（バス路線）の現状等

- ・事務局から資料2の説明を行った。

(4) 意見交換

- ・公共交通は単なる交通手段ではない。都市を活性化させていく戦略の中で交通をどうするかという視点が必要だ。
- ・福山では駅前が変わってきているので交通も変わる良いタイミングだ。
- ・多くの人が関心を持っているが乗る機会がないことは問題であり解消する必要がある。
- ・公共交通が使いやすいものだと身をもって感じてもらうことが重要で、そのための作戦を考えることが最優先だ。
- ・利用者が感じる使いにくさやストレスなど負のイメージを解消する必要がある。
- ・しっかり広報して、まずは乗るきっかけを作る。
- ・このプラットフォームに様々な意見・利用者の声を集め共有する。
- ・いかに需要を取り込むことができるかというマーケティングの視点が必要だ。
- ・まず実証し、良ければ計画に位置付ける進め方が良い。フットワークの軽さが必要だ。
- ・情報の取得方法も含めてバスは使いやすいものだと周知することが必要だ。
- ・所要時間を安定させることを渋滞対策と合わせて取り組むべきだ。

- ・中心市街地には吸引力があり、ポテンシャルを感じる。これを生かせるとよい。
- ・公共交通に慣れるまでのステップが必要だ。
- ・バスに乗りたい、バス会社で働きたいというイメージをつくっていくことが必要。
- ・市民の環境意識は高まってきている。これらの人をターゲットにするのも一つ。
- ・バスの乗り方や調べ方を周知するなど、乗るきっかけをつくることが必要だ。
- ・移動以外の目的を持たせることができれば今までと違う利用者層を獲得できる。
- ・子育て世代や障がい者は、周囲に迷惑をかけないよう公共交通を避ける傾向がある。
- ・利用者を増やすためには、利用しやすい路線（直通路線など）をつくる必要がある。
- ・遅延証明の対応（遅延証明をもらえない場合もある）も含めて、子どもが安心してバスを利用できる体制づくりも必要だ。
- ・都市部で生活した経験がある人など公共交通に慣れた人は問題なく利用する。
- ・他の業界・企業との連携や前例のないことに取り組むことが大事だ。
- ・企業の声をこの場でも吸い上げていく必要がある。
- ・日常の移動（買い物や通院、地域のサロンなど）に困るという声をよく聞く。
- ・利用せざるを得ない人（免許未保有者など）が多く利用する路線をいかに守るかが重要だ。